

# 南アルプス市立小笠原小学校学校関係者評価書

令和2年1月24日（金）  
学校関係者評価委員会作成

## 第二回 学校関係者評価委員会

実施日：令和元年1月23日（木）午後1時15分～午後2時15分

会場：小笠原小学校校長室

評価者：学校関係者評価委員

新津 岳（元市教委教育部長）

杉本 健（子どもを守る会会長，学校評議員）

小林まち子（主任児童委員，学校評議員）

上田 直人（校長） 河村 徳仁（教頭） 松田 晃一（主幹教諭）

### 1 学校側から提案の内容

- ①学校評価の方法について
- ②今回の全体的な傾向と前年度との比較
- ③重点課題への取り組みと成果と課題
- ④まとめ…学校評価から見られる成果や課題，ならびに改善策について

### 2 協議された主な内容

- ①学校評価への全体評価について
- ②達成状況と改善策について

## 《学校関係者評価書》

### I 全体評価

児童，保護者，教職員を合わせ，ほとんどの項目でプラス評価の傾向にある。このことから，小笠原小学校の教育活動が保護者や地域の理解と協力を得ながら効果的に行われていると考えられる。

### II 学校関係者評価委員会の中で出された意見（授業参観をしての意見を含む）

- ①授業を参観して，子ども達が大変落ち着いていると感じた。保育士をしていた時から気にしていた子ども達も落ち着いて学習できていて，成長を感じた。先生方の日々のご努力に感謝したい。
- ②スマホなどタブレット等電子機器に我が家の入学前の子でさえも親の使っている姿を見て気にしている。テレビを見ると良くないと言われた時代もあったが，スマホは依存性が高く脳の発達に影響があるという研修を受けた。スマホに依存して学校へ行けなくなる事例もある。子ども達への負の影響に対して，何らかの手立てを打つ必要を感じる。あやめっ子タイム等の活動に期待している。
- ③子ども達が落ち着いて学習できていて良かった。先生方は，版画も指導する，音符も指導する，英語も指導する・・・，小学校の先生の大変さを感じた。小学校の頃からいろいろな行動パターンを刷り込んでいただいている。小さいころに刷り込むことは，とても大切なことだ。並んだり，ゴミを拾ったり，日本人が外国から称賛されていることも小さいころからの刷り込みによるところが大きい。今後も学校教育による良い意味での刷り込みをしてほしい。
- ④先生方が放課後にできない子を教えていることは，忙しい中大変ではあるが，子ども達のために是非続けてほしい。
- ⑤普段，子ども達はよくあいさつをしてくれている。特に男の子はよくあいさつをする。女の子は集団になると，あいさつをしない子もいる。発育発達で仕方ないところもあるが，継続して取り組んでほしい。

ほしい。

- ⑥英語や高学年の算数のように、保護者もついて行けない教科もあるのではないだろうか？家庭学習を進めるにあたって、家庭にも今どんな学習をしているのか、どんな指導をすると良いのか、フィードバックをすることが大切だ。
- ⑦昔は遅くまで学校に電気がついていて、最近では以前に比べて先生方の帰りが早くなったようだ。超過勤務に対して先生方が意識して取り組んでいる成果だと思う。先生方自身の健康や家族のことを考えて無理なく勤務する必要がある。
- ⑧エアコン等あるものはどんどん使う。必要なものは必要だと要求していくことが大切だと思う。
- ⑨ゲームを条例で規制するところもあるが、スマホ・タブレットが当たり前になってきている現在にあつて、そういうものを利用して自分の考えを作ることができる、そういう道具を使って自分の考えを発表できる、知識を表現できる、といったスマホやタブレットなどの機器を有効に活用できる力をつけることも大切だ。世界基準で考えて行く必要がある。
- ⑩新しい実践である「あやめっ子タイム」、無言行動、日々校庭で行っている小笠原チャレンジ等、学校として新しいことに挑戦していて非常に素晴らしい。
- ⑪毎朝見守りで立っている時に、子ども達はどういう学習をしているかな、今朝は寒いけど子ども達は大丈夫かな等いろいろなことを考えながら立哨を行っている。今日、授業参観をさせてもらって、子ども達が暖かな環境の中で、生き生きと学習している姿を見られて、大変ありがたくうれしく思った。
- ⑫地域社会との連携の中で、地域に学校便りを回覧し、学校を地域に発信している。校長先生が先頭に立ち学校を地域に開いている。地域にとっては、学校の様子をよく理解でき、大変良い事だと感じている。
- ⑬先生方は教材を良く準備し使っていて素晴らしい。子ども達が生き生きと活動していて学校生活が充実している。先生方の頑張りに感謝している。
- ⑭子ども達にスマホの正しい使い方を教えたい。朝ごはんを食べて、朝日をあびて、学校に来る。外で友達と遊んだり運動したりする。小学生として基本的なことを教えてほしい。スマホの正しい利用の仕方学校で教えてほしい。
- ⑮スマホについては道具だと考えるといい。これが全てだと考えない。人と握手すると温かい。スマホの世界だと怒られることもない。顔を見ながらコミュニケーションをとることが大切だ。
- ⑯いつの時代もバランスが大切。ネットと現実の世界、アナログとデジタル、学校の課題として、危険に対して自分で守る力をつける必要がある。今度5年生に県警から講師を呼んで、スマホをどう使ったら良いのか指導していただく予定である。
- ⑰昔と違い今は子ども同士の関係性が少ない。人と接する量が明らかに違う。強制的にいろいろな人とおしゃべりさせ、人と人との関係性が上がることをねらっている。子ども達のセーフティーネットは人間関係なので、「あやめっ子タイム」の取り組みを進めている。
- ⑱無言行動を掃除の時間に取り組んでいる。掃除を通して何を育てるか。掃除をすることにより心を育てる。きれいにすることは、二の次である。あやめっ子タイムにつなげ、一つの課題に向かって取り組む力を今ある活動の中でどうやって作っていくか考えて行きたい。
- ⑲靴をそろえる活動も靴をそろえることができること自体が目標ではなく、きれいにそろえることを通して一人一人をどう育てるかが問題だ。また、周りの子が気付いてなおしてあげる。そういう気持ちを育てることもまた大切だ。

### Ⅲ達成状況と改善策について

各アンケートの結果から、落ち着いた教育活動が行われ、教職員と児童・保護者・地域との関係が良好であることがうかがえる。今年度の取り組み（学び合いの学習の定着・地域や家庭との連携）を継続させていく中で、さらなる教育活動の充実を目指していきたい。そのために、否定的な回答やポイントの下がってきたもの、特に家庭学習への取り組みをどうしていくかを考え、それを次年度の重点課題とすることが大切である。